

エコスクールへの積極的な取り組み

環境共生モデル都市を目指すツインシティ大神地区に立地する学校として、子どもも大人も実際に見て・触れて学習する体験・体感型の環境モデルとなる施設整備を目指します。

① 自然を取り込む「気持ちいい」校舎

光あふれる風通しの良い校舎とし、太陽光発電や風力発電等を表示するモニターを設置するなど子どもたちの省エネ意識を高めます。



太陽光発電

② 「緑豊かな」校舎

低・中・高木による植栽とともに、建物には壁面緑化や緑のカーテン等を設置し、子ども達が手入れし、緑の蒸散効果や日除け効果を体感します。



壁面緑化

③ 「田園風景の記憶を継承」する校舎

計画地周辺に位置する水路を活かし、教材園や水田等を設置するなど植物とふれあい自然や環境について学習します。



教材園

④ 再資源の活用

校舎の木質化、雨水利用や再生リサイクル材を活用し、生活の中で森林等の資源の大切さを学びます。



木材利用

⑤ 「省エネルギー」校舎

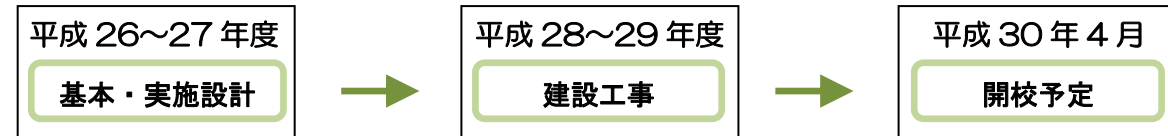
高効率の設備機器の採用とともに庇やバルコニー、風の通り道をつくり、断熱性能をしっかりと確保することで、「冬あたたかく」「夏すずしい」ランニングコストを低減する省エネルギー校舎とします。



雨水利用

事業スケジュールと概算工事費

事業スケジュール



概算工事費

概ね 25 億円を見込んでいます。

お問合せ連絡先

平塚市教育委員会学校教育部教育施設課

〒254-8686 平塚市豊原町2番21号

Tel : 0463-35-8115 Fax : 0463-36-7555

E-mail : k-shiset@city.hiratsuka.kanagawa.jp

～今までの伝統を、新しい相模小学校へ～

相模小学校移転基本計画

ダイジェスト版

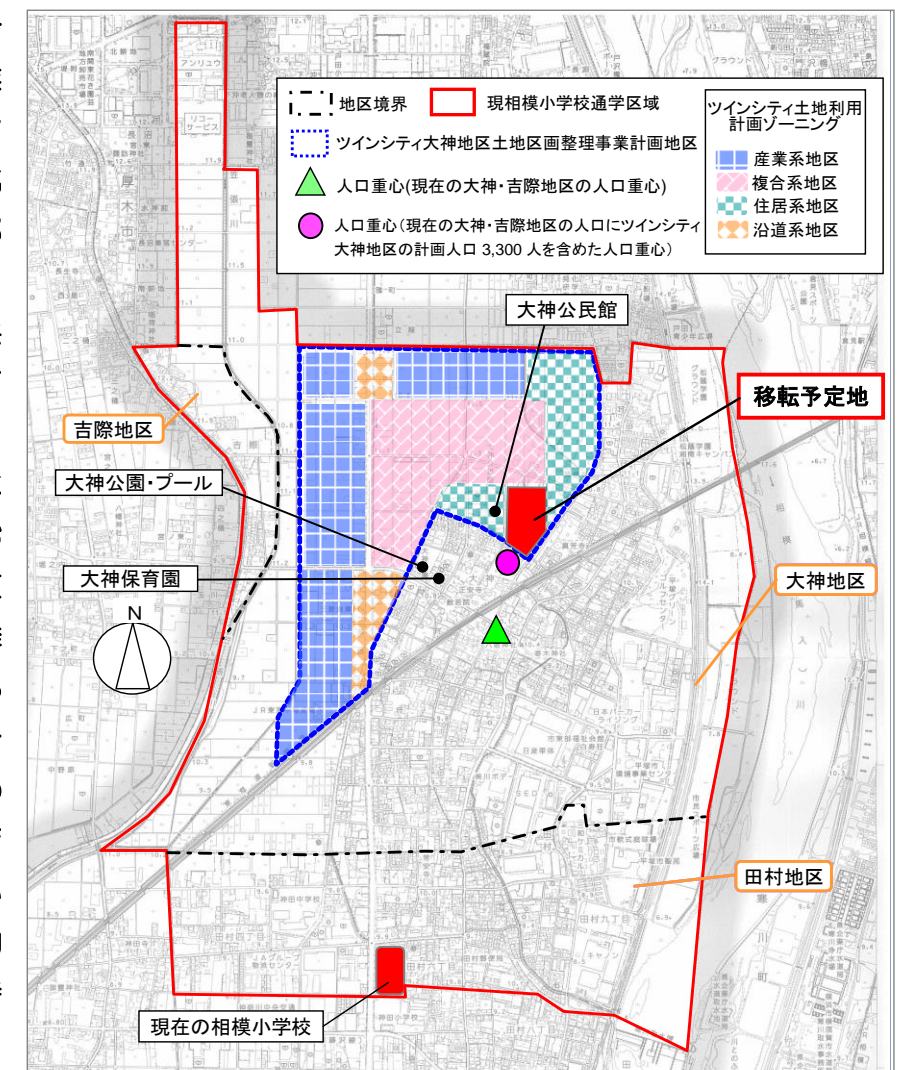
平成25年4月に策定した「相模小学校移転に係る整備方針」において、その整備方針として、「①豊かな学びを創造し、確かな学力を育む学校づくり」、「②安心安全な学校づくり」、「③環境にやさしい学校づくり」、「④地域に親しまれる学校づくり」を掲げています。

本計画は平成30年4月開校へ向けての基本・実施設計において、これらの考え方を実現するために必要な諸条件について、その方向性をまとめたものです。

移転予定地

移転予定地は、ツインシティ大神地区土地区画整理事業計画地区にあります。ツインシティ大神地区は平塚市の北の核として、新たな産業や都市機能を集積するとともに、周辺の環境と調和した環境共生都市への整備が計画されています。

その中でも、移転予定地は教育地区として計画されており、西側は大神公民館に、東側と南側は既存の住宅地に隣接する静かで落ち着いた環境です。また、ツインシティ大神地区の計画人口を含めた人口重心に近接する位置であることから、新しい相模小学校が今後とも地域の中心的役割を担っていくことが期待されます。



基本方針

「相模小学校移転に係る整備方針(平成25年4月)」に従って本基本計画の基本方針を定めます。

① 豊かな学びを創造し、確かな学力を育む学校づくり

充実した学びを得られる環境を整備します。創造性のある学習の場とするため、合同学習やグループ活動、個別指導等、多様な学習形態に対応できる教室を設置するとともに、ICT(※1)等環境の充実を図っていきます。

② 安心安全な学校づくり

安心して学べる環境を整備します。児童が安心して学校生活を過ごすことができ、また、災害時の地域における避難所として、誰もが使いやすい施設となるよう、安全性が高く、ユニバーサルデザイン(※2)などに配慮します。

③ 環境にやさしい学校づくり

健康な生活を保つための活動の場として整備します。環境共生モデル都市を目指すツインシティ大神地区に立地する学校として、省エネルギー化を進め、地球規模の環境に配慮した、エコスクール(※3)を目指します。

④ 地域に親しまれる学校づくり

心と心のふれあいを通じて学び豊かになる取組みの場として整備します。これまで地域と共に歩んできた活動・交流を継承するとともに、高齢化社会と核家族による地域コミュニティの活性化を図る拠点として、児童からも地域からも親しまれる学校を目指します。

※1：パソコンや電子黒板などの情報・通信技術のこと。(Information and Communication Technologyの略)

※2：年齢やハンディキャップの有無に関わらず、すべての人が利用しやすいように始めからデザインされたものこと。

※3：文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省が連携協力して推進する、環境にやさしく、自然と共生しながら、環境教育の教材として活用される学校のこと。

施設規模と必要諸室の特色

(1) 施設規模

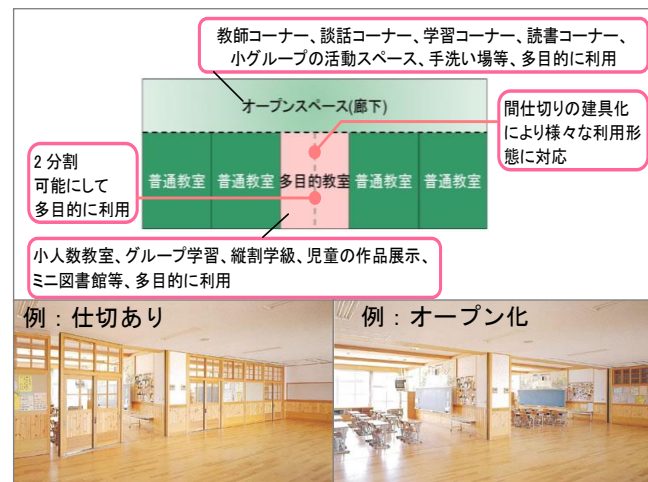
人口統計とツインシティ大神地区の計画人口から児童数を設定し、適切な施設規模を検討します。これまでの児童数の推移、大神・吉原地区の人口変化や通学区域の変更が予測される田村地区の児童数を考慮し、本基本計画では約300人の児童数を対象とした施設規模とします。

なお、ツインシティ大神地区の人口増加に伴う児童数の増加に対しても対応可能な施設計画(1学年80人(1年生は70人)・各学年2クラス 計470人)とします。

(2) 必要諸室の特色

普通教室部門

低学年、中学年、高学年の教室を分けて配置し、各学年の教室に多目的教室とオープンスペースを隣接させ、多様な学習形態に対応できるようにします。教室と廊下の間は、開閉可能な建具等で仕切り、集中力を高める必要がある場合は閉じて、学年ごとに教科学習等を行う場合は開くなど、授業や活動内容に合わせ、フレキシブルに対応できるようにします。



特別教室部門

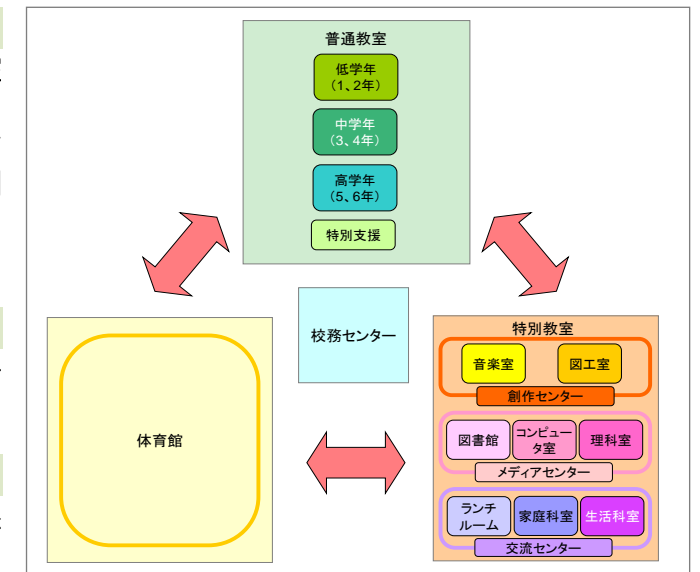
ランチルーム(多目的ホール)、家庭科室と生活科を『交流センター』、図書室、コンピュータ室と理科室を『メディアセンター』、図工室と音楽室は『創作センター』としてグループ化して配置し、児童が自ら学習・活動を行える場にします。

管理部門

校務センターは学校の中心に配置し、各部の連携を高めます。

地域連携部門

地域と積極的にかかわる体験学習等、保護者や地域の住民の利用も考慮します。



考えられる施設レイアウト計画

本基本計画から考えられる施設レイアウト計画を示します。

	Aプラン I型	Bプラン L字型	Cプラン コの字型
配置ゾーニング			
普通教室と特別教室の配置	併設型 	分離型1 	分離型2
断面イメージ			
児童の移動動線	普通教室と特別教室間の移動動線がコンパクト	特別教室間の移動動線が長くなる教室ができる	普通教室と特別教室間の移動動線がコンパクト
低・中・高のゾーニング	低・中学年が一緒	低・中学年が一緒	建物・フロアごとで分離
外部空間(広場)と校舎のつながり	外部空間(広場)を介して公民館側・北側とつながりやすい	外部空間(広場)を介して北側とつながりやすい	外部空間(広場)が閉じているため、周辺とのつながりが希薄

